

JICA 筑波上空にドローンが出現

～農業への ICT 利用～

JICA筑波の圃場で実習の様子

JICA 筑波で実施の「農業統計の企画・設計」コースで、今話題のドローンを使用した実習が行われました。このコースは、開発途上国では農業統計データ(農業の実態)が正確に把握されていないことから、現状に合った食料安全保障政策や農業政策の立案に支障をきたしているという課題に対して、統計官の農業統計の企画と設計に係る基礎知識の習得を通して課題解決へ貢献することを目的としています。

「ブーン」と音を立てて舞い上がるドローンに興味津々の研修員(右写真)



農業統計調査への ICT (Information and Communication Technology) 利用の可能性



JICA 筑波場内圃場上空からドローンで撮影

この農業統計の整備が進まない理由として、農業統計を実施する人材の育成が間にあっていないことに加え、インフラが整っていないことが挙げられます。農業統計調査を行う場合は、現場へ行って作物の状況を確認し、作付面積を測るといった作業が必要となりますが、この調査目的地点へのアクセスの悪さや移動コストの問題があります。そこで、ドローンのような最新技術を活用することができれば、アクセスが悪いところでも、現場の様子を見ることが出来るだけでなく、撮影した画像から面積を測ることも可能となります。最新技術といっても、基本的な考え方(生産量=単収×面積)は同じ、どのような方法でコストを抑え、それを実行するかが勝負どころということです。このような ICT 技術の農業利用は最近注目され始めたばかりですが、将来的には低コストでの実施が可能となり、各国で効率的な統計調査において利用されることでしょう。



モニターを覗き込む研修員

このように、JICA 筑波では日本におけるこれまでの経験だけでなく、可能性のある最新技術の紹介も積極的に取り入れながら、より効果的なプログラムを実施しています。

【研修コース情報】

研修コース名	2016 年度課題別研修「農業統計の企画・設計」コース
問い合わせ先	JICA 筑波 代表メールアドレス: tbicttp@jica.go.jp